



宮城県東部保健福祉事務所 (宮城県石巻保健所)

復興支援ニュース Vol.21



平成25年4月

地域包括ケアシステム講演会

3月9日、高齢者の方が住みなれた地域で生活するための保健・福祉・医療の連携や地域住民の協力等の体制づくりによって進められる地域包括ケアシステムについての研修会(主催:石巻市立病院開成仮診療所、当所共催)が、行政、医療、介護、福祉関係者を対象に開催されました。中越地震後に新潟県長岡市でサポートセンターを運営していた小山剛講師から、24時間365日安心して住みなれた地域で生活するための地域づくりについて、実践を通しての講義がありました。

今回の研修会は、復興に向けたまちづくり、住み慣れたまちで生活するためのシステムを考えるきっかけとなりました。



【講演会の様子】

女川町住民交流会レポート

女川町では、石巻市の民間賃貸仮設住宅で生活している住民の健康状態を把握し、住民同士の交流の場を作ることを目的に、3月5日石巻合同庁舎を会場に住民交流会を開催しました。

医療センターの医師から健康に関する話や、保健師等が血圧測定などを行いました。参加者は約10名と少人数でしたが、町民同士のつながりや、町の情報を町職員から直接聞ける良い時間となりました。今後も開催して欲しいと住民から希望があり、25年度も交流会を定期的に開催するよう、町では検討してく予定です。



【交流会の様子】

医療と福祉の連携推進研修会

石巻地区地域医療対策委員会主催で、「医療と福祉の連携推進研修会」を3月13日に開催しました。当日は、医師や薬剤師、看護師、ケアマネジャー等約140名が参加しました。



【研修会の様子】

石巻市立病院開成仮診療所の長純一所長から、石巻地域の特徴や課題、在宅医療に興味を持つ医師や看護学生を受け入れている等の講話を聞きました。

次に、連携している地域ケアについて、医療機関の医師、ケアマネジャー、訪問看護師から報告がありました。訪問診療にケアマネジャーは同席するように心がけていることや、訪問診療を行う医師が少なく、訪問看護師との連携が不可欠であることなど、連携の重要性を改めて感じました。

災害支援シンポジウム

3月17日、石巻赤十字病院において「災害支援シンポジウム～今からの災害ソーシャルワークの在り方を考える～」(主催:公益社団法人日本医療社会福祉協会)が開催されました。

行政や在宅被災世帯支援活動団体等から被災者生活支援の活動事例の報告があり、災害発生時にスピーディに対応できる公衆衛生チームが必要なことや、仮設住宅入居期には住民主体の健康づくり活動の大切さなどについて意見交換が行われました。



【シンポジウムの様子】

震災から2年を経て～東部保健福祉事務所長 挨拶

ようやく暖かくなってきて、気持ちも和らいでくる感じがします。毎朝、旧北上川堤防のジョギングを日課にしていますが、この冬は、寒さのために布団から離れられない日もありました。そういう日が続くと、体だけでなく心も淀む感じがして、心身の密接な関係を実感します。

震災から2年が経ちました。仮設住宅等にお住まいの方々は、従来の生活環境が変わってからの生活が長引いて、体を動かす機会が自然と減ってきているのではないかと思います。これまで家の畑で野菜作りをしていたのができなくなった、地域の様々なコミュニティ活動の機会が減ったなど。「使わない機能は衰えます」が、その範囲は予想以上に大きいものがあります。体の働きだけでなく、頭の働き、心の有り様も弱ってきます。特にご高齢の方や持病のある方は要注意です。予防のためには、体を動かすだけでなく、「一日の生活全体を活発化する」ことが大切です。

このいわゆる「生活不活発病」対策は、個人レベルの取組に加えて、体を自然と動かすようなコミュニティづくりが大事だと考えています。そのため、保健・医療・福祉分野に止まらず、まちづくり、農林・水産・商工、社会教育などの部門の協力も必要ですので、住民の皆さん、関係者の方々、よろしくお祈りします。



東部保健福祉事務所長 渡辺 達美



難病対策研修会開催

在宅で療養している神経難病患者や家族が安心して暮らし続けるための管内の支援体制充実をはかることを目的に、当所では、3月15日研修会を開催しました。市町職員や、医療機関、ケアマネジャー等の支援者約50名の参加がありました。

齋藤病院渡辺弘一副院長から、神経難病の病気の基本や、災害時には吸引や栄養管理等の医療が最優先になること等の講義がありました。

宮城県介護研修センター大場薫作業療法士からは、災害時停電が起きることが想定されるので、電源の確保が命綱であり最重要であると話されました。また、会場には、バッテリーや車から電源を確保できるインバーター等の展示もありました。



【研修会の様子】

3.11 東日本大震災追悼式

3月11日、東日本大震災から2年目を迎えました。石巻市、東松島市、女川町の各市町でも震災犠牲者を追悼する式が行われ、午後2時46分に黙祷が捧げられました。

女川町では追悼式に約1500人が出席し、「あの日から2年、もう2年、まだ2年。過ぎ去った2年という月日は誰にとっても重いものでしょう…」と町長が哀悼の意をあらわしました。

県議会では、3月11日を「みやぎ鎮魂の日」に定める条例が可決され、今後もこの日は犠牲



者に追悼の意を表し、記憶を後世に伝え、復興を誓う日として制定される予定になっています。



【女川町 追悼式の様子】

編集後記

震災発生3年目を迎えました。これまでの業務をとりまとめる中で、少しずつではありますが復興の歩みを感じています。

県では、震災から3年間で復旧期と位置づけ、今年は復興に向けての発展の種をまく年としています。今後も皆様に当事務所の活動状況や石巻地域の復興状況をお知らせできるよう、復興支援ニュースを発行していきますので、皆様にご覧いただければ幸いです。

問い合わせ先

宮城県東部保健福祉事務所
(石巻市東中里1-4-32)

企画総務班

H P: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-hc/>

T e l: 0225-95-1416(代表)

F a x: 0225-94-8982